

「学生懇談会2025」意見交換内容

2025年(令和7年)9月22日(月)開催

<学生から大学への要望>

番号	学生からの意見・要望など	回答部署	回答
1	<p>■学年間の交流について</p> <p>＜現状・課題＞ 交流の機会が少なく、その場だけのつながりになっているため、交流の機会を増やしたい。 また、上級生に履修登録や定期試験の勉強について聞く機会がないため、そのような機会が欲しい。</p> <p>＜改善方法＞ 実技演習や実習施設の情報を事前に上級生から聞く場を設けたり、履修登録期間や定期試験前にアドバイスをもらえる機会を設ける。 メンバーを変えずに定期的に交流できる場を設ける。</p>	・学生委員会	<p>・学年間の交流の場を設ける場合、実施時間や場所をどのように設定すれば良いか。</p> <p>→(学生回答) 授業の空き時間で実施し、定期的に開催できれば、内容が有益であるため参加する学生も多いと思う。</p>
2	<p>■学科間の交流について</p> <p>＜現状・課題＞ シンメディカルの授業は、「看護学科・臨床工学科」と「理学療法学科・作業療法学科」のグループに分かれる場合が多い。人数の多い看護学科と理学療法学科のみで話が進行することが多く、他学科の意見が通りにくい。学科ごとに専門知識に差があり、すぐに話し合いが進められない。 また、健康科学科のことをよく知らない。</p> <p>＜改善方法＞ 事前にシンメディカルの授業メンバーと顔合わせを行い、学科間の話し合いの時間を増やす。他学科について、正しい理解ができるような機会を設ける。</p>	・健康科学科長	<p>シンメディカルの授業で学科理解の場を設けていく。 また、他の機会も通じて、学科内容を知ってもらえるよう努める。</p>
3	<p>■連絡・出欠確認について</p> <p>＜現状・課題＞ ①学生への連絡ツールが多すぎる。 manabaのコンテンツ内の項目が多く、必要な情報を探しづらい。 ②授業の出欠確認方法が教員によって異なる。 現状、遅延証明書を提示していない場合でも、遅延が認められるなど、ルールが定められているものの教員ごとに対応が異なっていて、出欠確認の不正が見過ごされている可能性がある。</p> <p>＜改善方法＞ ①学生への連絡ツールの統一、情報掲載箇所の簡略化を行い、manabaにまとめて記載する。 ②教員の対応を統一し、守っていない学生への対処をしっかり行う。</p>	・教務委員長 ・事務センター	<p>・連絡手段が多く、manabaとSlackでの情報配信に関する統一ができるがない。来年度に向けて、使用のルールを定めてわかりやすくするように検討する。</p> <p>・出欠確認方法について、教務委員会から出席管理を徹底するよう改めて全教員に周知する。また、遅延証明書の対応について統一するよう依頼しているが引き続き周知努力を行う。</p> <p>・欠席届を紙でも提出することについて、授業欠席する場合は授業前にmanabaでの連絡が必要だが、申告のすれを無くすために、紙での提出も求めている。今後、円滑に行えるように検討する。</p> <p>・個人に送付する内容、全体に周知する内容で連絡ツールを分けていた。これからは学生の皆さんのがよりわかりやすいよう工夫する。</p>
4	<p>■教員同士の情報報告、連絡、相談について</p> <p>＜現状・課題＞ 実習時の髪色や教科書使用の認識が教員や学科によって異なる。 指定された教科書を購入したが、実際は変更になっており、また別の教科書を再び購入した場合や、購入した教科書を授業では使用しないことがあった。</p> <p>＜改善方法＞ 髪色について、個人の主觀で決めずに、ヘアカラーチャートなどを用いて判断する。 教科書の使用について、学科内や学科間で会議を行い、情報共有を徹底する。</p>	・看護学科長 ・理学療法学科長 ・作業療法学科長 ・臨床工学科長 ・教務委員長 ・事務センター	<p>・本学においては、各学科の教育内容や職業特性、ならびに実習環境が異なることから、身だしなみに関する考え方には一定の違いが生じることはやむを得ないものと考えている。</p> <p>・実習時の髪色については、特定の数値や基準表による一律の判断は行わず、各学科において複数の教員が総合的に確認・判断する体制をとっている。</p> <p>・本学としては、ヘアカラーチャートを用いた判断は行わない方針としている。</p> <p>・教科書については、購入案内の手違いがないようにする。シラバスに使用しない教科書であれば「参考書」として記載したり、使用頻度を記載してもらうなど次年度に向けて改善する。</p>
5	<p>■実用的な演習物品について</p> <p>＜現状・課題＞ 教材について、ゴニオメーターのネジが緩んでいたり、血圧計は実習ではデジタルが多いが、学内機器はアナログである。</p> <p>＜改善方法＞ 新しいゴニオメーターを購入する。実習で使用する練習ができるように、デジタル血圧計も導入する。</p>	・理学療法学科長 ・教務委員長	<p>・ゴニオメーターの金属部分は、授業で落としてしまうとねじが緩んだりする可能性がある。その他の備品も含めてメンテナンスをしながら学生が使いやすくする。</p> <p>・病院ではデジタル血圧計を使用しているが、デジタル血圧計が壊れた場合にアナログ血圧計を使用することになるため、そのような場合に備えて使用できるよう授業ではアナログ血圧計を使用している。</p>
6	<p>■教科書について</p> <p>＜現状・課題＞ 購入したが使用しない教科書があり、金銭的負担がある。また、一部の科目で「電子化」である教科書と認識されていなかった。 必修科目的教科書はセット購入のみで、単品購入できないことは不便である。</p> <p>＜改善方法＞ 授業内で必ず使用するものかどうかを明記してもらいたい。 授業で使用する教科書が本か電子であるかどうか情報共有を徹底する。 必修科目的教科書も単品購入を可能にしてほしい。</p>	・教務委員長	<p>・教科書を電子化して間もないこともあり、教員個人の問題でもある。出版会社との調整もあり、手続きの都合で当初から変更された場合もある。</p> <p>・必修科目的教科書がセット購入のみであるのは、本学は他大学と違い必修科目を受講する学生が多いこと、またセット販売をしないと教科書を購入しない学生もいるためである。本格的な教科書の電子化に向けてセット販売のみではなく、単品で購入することが可能であるかどうか出版会社に確認する。</p>